

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 塩貝 孝之

委員会名	産業建設常任委員会	
委員名	[委員長] 塩貝 孝之	[副委員長] 村山 好明
	[委員] 堤 博明	[委員] 木戸 徳吉
	[委員] 小中 昭	[委員] 前田 義明
視察先	株式会社アドバンテック (愛媛県西条市：いとまち)	徳島県那賀郡那賀町
視察日	令和7年5月14日(水)	令和7年5月15日(木)
視察時間	午後2時00分～午後4時00分	午前10時30分～午後0時00分
調査事項	・企業が主体となったまちづくりの展開について	・休校となった小学校の校舎を活用した陸上養殖の取り組みについて
行政視察を終えて	株式会社アドバンテックが「糸プロジェクト」として別会社を立ち上げ、地方創生の新しいモデルとして現在進行形でまちづくりを進められていた。 地産地消をテーマにされたマルシェ、市内の食材を活用したレストラン、電力を消費しないホテル、さらには住居エリアの整備や、今後は温浴施設やジムも計画されており、民間企業による一つの集落が形成されている。商業施設エリアではマイクログリッドというエネルギーの地産地消システムが導入されており、災害に強い部分においても非常に参考になった。再生可能エネルギーという部分に注目しがちではあるが、民間企業が持続可能なひとつの街を作り上げられようとしている事は本市でも挑戦可能なのではないかと可能性を感じた。そもそもの発想は西条市の魅力を再発見し活気あるまちにしたいという強い想いからの出発であると同った。本市においても行政だけの力ではなく民間活力を上手く活用できる取組みを検討しなければならない。	那賀町の面積は694.98平方キロと本市と同等であるが可住地は半分程度であり、町の9割以上が森林という地域です。 人口減少により失われた活気を取り戻そうと、休校となった小学校を活用しクルマエビの陸上養殖事業を始められました。現在は実証実験中ということであったが、令和8年度には地域内で事業主体を設定し軌道に乗せていく旨であった。 今後も継続した行政支援の必要がない採算が見込めそうな事業であり、本市においても市有財産の有効活用を図る観点からも非常に参考になった。 民間企業や地域商社等による運営形態を目指し、地域で稼ぐ手法を模索しなければならないと強く感じた。特に学校施設跡は養殖や栽培等、全国各地で取組みが進められている。本市でも十分に検討可能であると考え、今後の取組みが不可欠である。

◇ 行 政 視 察 報 告 書 ◇

《提出者氏名》 村山 好明

委員会名	産 業 建 設 常 任 委 員 会	
委 員 名	[委 員 長] 塩貝 孝之	[副委員長] 村山 好明
	[委 員] 堤 博明	[委 員] 木戸 徳吉
	[委 員] 小中 昭	[委 員] 前田 義明
視 察 先	株式会社アドバンテック (愛媛県西条市：いとまち)	徳島県那賀郡那賀町
視 察 日	令和7年5月14日(水)	令和7年5月15日(木)
視 察 時 間	午後2時00分～午後4時00分	午前10時30分～午後0時00分
調 査 事 項	・企業が主体となったまちづくりの展開について	・休校となった小学校の校舎を活用した陸上養殖の取り組みについて
行政視察を終えて	株式会社アドバンテックが愛媛県西条市で行っておられるまちづくりについて研修を行いました。まず、最初に株式会社アドバンテック代表取締役副社長による御社の取り組み内容について説明をいただきました。補助金は直接国等へ交渉され、市の補助金にたよらない運営をされている。また、地域の特性を生かした活動をされ、多くの地下水の資源を利用されています。また、先進的な建築設計による省エネ、自然エネルギーの積極的な活用、効率的な設備システムの導入等による施設室内環境の質を維持され、大幅な省エネルギー化を実現されている。なお、施設としてホテル・マルシェ・食事施設を運営されており、太陽光発電によるゼロエネルギーの環境にやさしい取り組みと災害時に安心のエネルギーとしての取り組み実践施設を見学いたしました。市に頼らない、企業が主体となったまちづくりの展開が、市の財政にやさしい、地域の活性化に大きく貢献している。今後の本市の取り組みの参考となりました。	徳島県那賀郡那賀町の休校となった小学校の校舎を活用した陸上養殖の取り組みについて視察を行いました。那賀町における農業は令和5年度耕地面積697ha、2020年の農家数900戸、販売農家433戸、自給農家467戸、認定農業者21人、認定新規就農者5人、主な農産物は、水稻、すだち、いちご、花卉、茶、ゆず等である。過疎進行地域であり、人口減少が著しい地区でもある。その中、休校となった小学校の校舎を活用したクルマエビの陸上養殖で、地域の活性化を図ろうとしておられます。現在の所、実証実験での取り組みであり、小規模の取り組みであるが、新しい取り組みで、地域活性化等を図り、人口減少歯止めの取り組みとして対応されていることについて、勉強させていただきました。今後の更なる進展に期待すると共に、また、取り組み姿勢についても勉強させていただきました。

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 堤 博明

委員会名	産業建設常任委員会	
委員名	[委員長] 塩貝 孝之	[副委員長] 村山 好明
	[委員] 堤 博明	[委員] 木戸 徳吉
	[委員] 小中 昭	[委員] 前田 義明
視察先	株式会社アドバンテック (愛媛県西条市：いとまち)	徳島県那賀郡那賀町
視察日	令和7年5月14日(水)	令和7年5月15日(木)
視察時間	午後2時00分～午後4時00分	午前10時30分～午後0時00分
調査事項	・企業が主体となったまちづくりの展開について	・休校となった小学校の校舎を活用した陸上養殖の取り組みについて
行政視察を終えて	・視察させていただいた(株)糸プロジェクト様から事業の概要から詳細までレクチャーを受け、多くを学びました。 地方創生新モデルとして再生可能エネルギー100%自活を目指す、人にやさしい街づくりを行われており、西条市においては「建築」「エネルギー」「食」「テクノロジー」「グリーンライフ」「グリーンインフラ」をキーワードにホテルやマルシェなどの「商業ゾーン」と戸建住宅による「住宅ゾーン」で構成される本物志向の上質な街づくり構想「糸プロジェクト」をスタートされ、街づくりの骨格となるマスタープランの作成を東京大学隈研吾研究室が担当され、居心地がよく住みやすく、自然溢れる賑わいの街づくりを進めておられました。 ホテル運営においては、実質的に電力エネルギーを消費しない日本初ゼロエネルギーホテルを展開され、多様な方が利用できる設計でした。またホテルは日本国内で初めてZEB認証を取得されました。拘りがあり、お客様が楽しめる空間で素敵でした。 いとまちマルシェとレストランも展開されており、マルシェでは地元産の商品をメインに販売され、レストランでは一流シェフの和食やイタリア料理が楽しめる雰囲気のあるお店でした。 また、広場では子ども達が楽しく遊んでいて	・休校校舎の活用で陸上養殖の実証実験を行われておりました。 活用方法を検討されたなかで、クルマエビの陸上養殖を選択され緻密なデータを収集され方向性が見え、本格的に令和8年度からスタートできるよう進めておられました。単費だけではなく県や国の補助金を利用されるようでした。今後は地元住民などで起業されて行政と連携を図り、地域の特産品として視野に入れておられました。養殖において、魚などは日数がかかり採算としても疑問点があるなかで、クルマエビは年3回転できるとのことでした。施設の有効活用を行い産業を生み出す取り組みは素晴らしいと思います。 また、メディアの取材もあり認知度が更に上昇しているようでした。 本市においても同じような背景があるなかで、現状の産業向上も大事ではありますが、新たな視点で産業を生み出すことも必要ではと考えております。今後も情報収集を行い本市での潤いの一つになればと思います。

	地域の方も多く利用され、国内外からの利用もあり、観光的・商業的にも素晴らしいプランで運営されていました。 産業建設部門とは違いますが、脱炭素の取り組みも桁外れの展開をされており、災害に強いまちを支える防災システム「地域マイクログリッド構築」で非常時でも安定した電力供給が可能な施設であり、72時間分の水や食料も完備し、約800名の避難者を収容する防災拠点の機能も持っておられました。視察した事を本市でどのように活用すればよいか、今後も検討していきたいと思います。	
--	---	--

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 木戸 徳吉

委員会名	産業建設常任委員会	
委員名	[委員長] 塩貝 孝之	[副委員長] 村山 好明
	[委員] 堤 博明	[委員] 木戸 徳吉
	[委員] 小中 昭	[委員] 前田 義明
視察先	株式会社アドバンテック (愛媛県西条市：いとまち)	徳島県那賀郡那賀町
視察日	令和7年5月14日(水)	令和7年5月15日(木)
視察時間	午後2時00分～午後4時00分	午前10時30分～午後0時00分
調査事項	・企業が主体となったまちづくりの展開について	・休校となった小学校の校舎を活用した陸上養殖の取り組みについて
行政視察を終えて	南丹市をはじめ多くの市町で『人口減少』『高齢化』が進み、どのようにして市町の活性化を取り戻すことができるのか、苦悩にあえいでいるのが現実である。自治体そのものの自体が存続が危ぶまれている今日である。 そんな中でプロジェクトチームを作り、まちづくりをされている西条市 いとまち「伊予西条 糸プロジェクト」の関連施設を視察した。運営主体は民間企業が担っている。財源は民間企業1社のみとのことである。商業施設には、休日には県内外から多くの人々が訪れ、賑わっているとのことである。ホテルには県内外、海外からも客が訪れ、平日にはビジネス客が多く利用しているとのことである。消費電力は太陽光発電、水道は地下水を利用し、ほとんどのエネルギーが自前で調達されているとのことであり、驚きを禁じ得ない視察であった。行政が関わることなく、民間主導で事業を行い試行錯誤を繰り返しながら今日を迎えられている事は、今後の我が町の発展を願う者として大いに参考になった。まちづくりだけでなくあらゆることの取り組みに今回の視察は生かしていけるのではないかと実感したところである。	「クルマエビ陸上養殖事業」を山間地域の活性化に向けた起爆剤として事業を行い、地域密着、地域活性化を図るとの思いから取り組みを始められた。最大の目的は地域力を引き出し、地域経済の高まりから活性化を図ることである。養殖関連施設を通じた関係人口の増加に伴う経済活動への好循環に期待している。地域活性化をして那賀町全域にまでその効果を広めていくことで住み慣れた地域でこれまでもこれからも暮らし続けていきたい、また暮らしてみたいと思えるような地域の実現を目指して思いを形に変えていきたいとのことである。事業を行う上で、施設が学校施設であることや養殖事業が陸上であることから、法的問題について関係機関に問い合わせ、十分な情報収集をされている事は、本市においてもその取り組み方は参考になることであると考えている。事業を展開する事について、あらゆる面から調査を行い、法的な問題等について各関係機関に照会しておくことが求められる。思わぬことで躓いたり、事業の滞りを招いたりすることの無いようにすることが求められる。本市も多くの施設を今後、地域や民間に移管されるのでこの件は重要と考える。

◇ 行政視察報告書 ◇

＜提出者氏名＞ 小中 昭

委員会名	産業建設常任委員会	
委員名	[委員長] 塩貝 孝之	[副委員長] 村山 好明
	[委員] 堤 博明	[委員] 木戸 徳吉
	[委員] 小中 昭	[委員] 前田 義明
視察先	株式会社アドバンテック (愛媛県西条市:いとまち)	徳島県那賀郡那賀町
視察日	令和7年5月14日(水)	令和7年5月15日(木)
視察時間	午後2時00分～午後4時00分	午前10時30分～午後0時00分
調査事項	・企業が主体となったまちづくりの展開について	・休校となった小学校の校舎を活用した陸上養殖の取り組みについて
行政視察を終えて	*半導体関連メーカーの株式会社アドバンテックがR2年に「糸プロジェクト」と名付けた再生可能エネルギーと地方創生をテーマとした街づくりが始まった。用地は約6.6haの遊休農地。事業の第一弾は「いとまちマルシェ」で、地元生産者が出品した野菜や鮮魚、花、加工品などの販売されている。 *実質的に電力エネルギーを消費しない、隈研吾氏設計の“日本初のゼロエネルギーホテル”は、自転車愛好家などに人気。 *エリア内のホテルをはじめ、マルシェやレストランなどすべての施設の屋上に太陽光パネルが設置され、再エネを活用した「脱炭素×地域再生」の取り組みがされている。 *住宅ゾーンは70区画の分譲地で、若い世代を中心に移り住む動きがあり、人口増加が期待されている。 ●2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の実現に向け取り組んでいる本市にとって、おおいに参考になると考える。	*廃校を活用した事業として、R6年にクルマエビ養殖の実証実験として始まった。 *サーモン等魚類の養殖期間が2年など長期間だがクルマエビは4ヶ月程度であることと市場価格の優位性などを参考にクルマエビで取り組まれた。 *地域内への優先的な取引をはじめふるさと納税の返礼品などに活用。 *現在は廃校の給食調理場だが、今後は校舎1Fや体育館など事業展開が予定されている。 ●本市においての廃校舎活用の参考になると考える。

◇ 行 政 視 察 報 告 書 ◇

《提出者氏名》 前田 義明

委員会名	産 業 建 設 常 任 委 員 会	
委 員 名	[委 員 長] 塩貝 孝之	[副委員長] 村山 好明
	[委 員] 堤 博明	[委 員] 木戸 徳吉
	[委 員] 小中 昭	[委 員] 前田 義明
視 察 先	株式会社アドバンテック (愛媛県西条市：いとまち)	徳島県那賀郡那賀町
視 察 日	令和7年5月14日(水)	令和7年5月15日(木)
視 察 時 間	午後2時00分～午後4時00分	午前10時30分～午後0時00分
調 査 事 項	・企業が主体となったまちづくりの展開について	・休校となった小学校の校舎を活用した陸上養殖の取り組みについて
行政視察を終えて	再生可能エネルギーで自活を目指す「建築・エネルギー・食・テクノロジー・グリーンインフラ」をキーワードにホテルやマルシェなど「商業・住宅」ゾーンで人にやさしい街づくりを考え目指されている企業が、水の都に「糸プロジェクト」をスタートされ、そこに私たちは現地に訪れ説明を受け、後に周辺の施設を見て回りました。一つはホテル、実質的に電力エネルギーを消費しない、日本初ゼロエネルギーホテル。次に隣接するマルシェやレストランでも高効率化設備(空調・換気・照明)などによる省エネを実施。さらに太陽光発電設備と蓄電池による創エネシステム導入などにより従来の建物で必要なエネルギーから年間で基準値に対しても省エネ・再エネ合計で91%の削減を達成されている状況。他には、蓄電池設、EV充放電気、太陽光発電設備、ガス発電設備による、まち全体でエネルギーをまかなう事により災害時における72時間分の非常用電源の確保や水・食料も完備され約800人の避難者を収容する防災拠点としての役割を果たされる事も、まちづくりに対する企業との連携についても確認できた。この様に企業が主体となったまちづくりが私たちの本市にとって取り組んで行ける一つの視点とエネルギーへの活用が重視されると考えます。	徳島県那賀郡那賀町の人口約7000人程の町に休校となった小学校の校舎を活用した「陸上養殖(くるまえび)」を取り組まれている現状を視察させていただき、担当者から現地で説明を受けるなかで、短い期間のなかで実証実験を重ねていく事で一定の成果を確認されていた。令和5年3月末に小学校が休校となり人口減少が進む町での空き校舎を利用した陸上養殖の事業の事業化により町全体の活性化とブランドの強化を図るための取り組みが令和6年8月から飼育開始(第1回)、12月に実証実験報告会、そして令和7年4月に第2回飼育開始と現在も実証実験をされている。印象としては、実証実験での設備の初期費用はあまり多くはかかっているように思え事業の実施には活用が可能と思われる補助金、交付金の獲得にも知恵と力を入れられている事でありました。短い実証実験をもとに今後の事業者(実施主体)の構想を地域での協議を踏まえて山間地域の特色を付加価値とし、町の活性化に向けた事業に私たち本市にも休校を活用した事業になるのではないかと考えております。